我妻忠義 ボーイスカウト隊長

あなたも監督しませんか？川中美幸の所属事務所社長が語る英国生まれの教育論

協調する精神が大事、でもその前に、まず自分がないと

黙って手本を示せば 少年は口答えしなくなる

KANTOKU ⑭

歌手の松田聖子の初代マネジャーで川中美幸の所属事務所アルデル・ジローの我妻忠義社長（64）は、ボーイスカウトに25年携わり、隊長として子供たちと一緒に野外活動をしている。「自分たち」でなく、「自分」として考え、行動する、自立心を育てる英国生まれの教育に、魅せられ実践している。＝毎週水曜掲載＝

聖子、明菜、酒井法子らを担当していました。若い人たちの音楽の感性、情報が得られたんですよ。岡田有希子くらいまでは、サンミュージックの作る音楽はいい、と評価されていたんです。

徹底的に議論

いじめ

ボーイスカウトに入った子供たちで、ぐれた例を聞いたことがない。うまくいっている証拠だと思うんですよ。

でも、ここでも、いじめに似たものはありますよ。そのときは、いじめた方と、いじられた方と、両方呼んで、目の前でなにをしようという風にきれたのか、したのか、徹底的に話し合うことにしています。すぐ泣く子には「我慢しなさい」と言い、いろいろ、こちらの気付いたことを指摘する。だいたい分かってくれますよ。

悲しい思い出がありません。以前高校でいじめにあったボーイスカウトの子が自殺しましてね。亡くなったあと、日記を見せていただいたら、「ボーイスカウトにいるときが一番楽しかった」と書いてあったんです。少し救われた思いがしましたね。

僕にとっても、若い人とずっといることは、仕事にプラスになっているんです。いまは演歌の歌手を預かっているけど、前は、松田聖子、酒井法子、早見優、岡田有希子、

生の情報収集

動機

長男が小学6年になって、自動的に少年野球にいらっしゃらなくなって、教育の意味もあって、一緒にボーイスカウトに入ったんです。非行に悩られても困るしね。親の僕は、見習いリーダーとして入ったんです。ちょうど仕事で松田聖子を担当していて、仕事にもいかせるなって思ったんですね。スカウトには小学生もいれば、中学生も高校、大学生もいる。どんな音楽聴いているの？って、情報が取れると思ったんです。

そんな軽い気持ちで入ったのが、もう25年になります。スカウトのなにがそんなに良いかというと、すべて「私は…」で、「私たち」ではないところなんです。基本的に個人の自立心を育てるんですね。そこにひかれました。

「私たち」でなく「私」で考え行動して欲しいから

▲▲ 微笑する我妻忠義隊長（東京・麻布のボーイスカウト事務所で　カメラ・加用　敬史）

仕事の上でも、若い世代との交流は貴重だったんです。

人見る目養う

鍛錬

ボーイスカウトには、昔は条件があって、入るのが難しかったんですよ。家庭がしっかりしているとかね。いまは誰でも入れる。みんな「なんでやっているの？」とか「帰来なにか役に立つの？」って言いますね。一瞬答えづらいですよね。なにもないですからね。就職や入学に役立つわけじゃないし、自分たちだって、お金をもらえるわけでもない。好きじゃないとできません。

ただ、自分を鍛えることが出来ます。自立心を育てますから、心の甘さが吹き飛んでしまいますからね。人を見る目も養われます。人の使い方も、金銭、自分ですから。キャンプにしても、ものを作るにしても、まず自分です。その上で仲間との調和を大切にしなければならない。

4泊5日のキャンプでも、ラジオもなければ、テレビもない、電気がないところに行く。私自身が学ぶ、ひかれまして、仕事のひまを見つけては、リーダー講習を受け、試験に通りました。

僕が担当しているのは南武蔵地区狛江第3団（全員で48人）のローバースカウト（18歳以上25歳まで）の隊長。隊員は7人います。月に1回ぐらい集まり、春夏秋冬にキャンプをやる。最大なものは、夏季です。もちろん、全員在は隊長が負うんです。

僕が見本になるんです

「自然を学ぶ」

目的

キャンプをやるときは、下見をします。場所をどこにしようかと探しに行くんです。で、場所を決めて、次に万が一に備えて近くに病院があるか、警察があるか、消防署があるか、調べる。それで一番条件がいいところに決めるわけですよ。次は水があるかチェックする。

みんなで共同生活をするわけだけど、ロープワークといって、川をわたる橋をロープで作ったり、最低4メートルのハイキングをしたりする。

ボーイスカウトは、健全な青少年育成を目指した運動で、野外活動を通して自然を学び、友情や協調の精神を育てる」のが目的ですから、キャンプでは、このロープワークのほか、手旗、工作、ゲームなどをします。

共同作業や共同生活で一番難しいのは、反抗期の子供たちを教えるときですね。年齢的にはベンチャースカウト（中学3年～19歳未満）の子供たちの扱いですね。言ってもなかなか聞かない。

僕の場合は、何も言わずに見本、手本を示すことにしました。リーダーにも、いろいろ得意なものと不得意なものがある。たとえば、手旗が得意なリーダー、ロープワークが得意なリーダー。料理がうまいリーダーとかね。僕の場合は、ロープワークが得意なので黙って手本を示すと、子供たちも、口答えも少なくなり、反抗もなくなるんですよ。うまい人には従うんですね。

南武蔵地区狛江第3団 委員長・服部英広さん「なにをするのもうまいりもし、野外活動もしっかりもしていて、子供たちにも好かれてます。ものにくるのもうまいし、なにより自分で見本を示すことができます。子供たちを怒ることはないですね。立派ですよ」

やっかいな反抗期でも、得意分野ある人間には素直に従いますからね

取材後記

音楽業界でも通用する厚で通っている。物静かで、シンが強く、他を導く。忙しい芸能界にいて、ボーイスカウトを25年もより続けるのは、並大抵ではない。導く人で、信頼に付き合ってもらったり、徹マンをしたこともあるが、親日はボーイスカウトで早朝集合だったとは、最近まで知らなかった。多くを語らない本人は「好奇心から休まず、ボーイスカウトに行くんです」と笑うだけだ。昔と大きく変わった点を聞けば、キャンプ前に、親からの子供たちが、なぜ、注文がつくことだという。スウェーデンの子供はあれがキライ、嫌がるから。非行にも走らなかった。音楽界にはないものがありました。マネジャーで良い間やってこられたのもスカウトをやっていたからだと思ってます。でなかったら、とっくに辞めていましたよ。

勉強になりました。

ウチの子供たちも、親が留守なら、自分でご飯を作るようになりました。

もうそろそろ「リタイアしたい」と言うが、近ごろボーイスカウトに入る子供たちが少なくなったと嘆いた。入隊していた長男も卒業し、事務所を手伝っている。孫ができたら「もちろん入れさせる」と力を込めた。（編集委員・細貝　武）

今日のスポーツ新聞の記事です。
ご紹介します。

日本ボーイスカウト東京連盟まほろば地区柳原第9団
宮脇誠一